

十字架上の七つのことば

第1回「父よ、彼らをお赦してください」

ルカ 23:34

〔その時、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか分からないのです。〕人々はくじを引いて、イエスの衣を分け合った。

1. 背景

主イエスが十字架につけられたとき、周囲の人々はあざけり、人々はくじを引いて衣を分け合っていました。処刑された者の所有物は、執行人たちが分け合う習慣があったのです。ヨハネ 19:23-24 では、衣を分け合ったのは兵士たちであったことが明らかにされています。そして、この兵士たちは知らず知らずのうちに詩編 22:18-19 の聖句を成就していたと解釈されています。

私は骨をみな数えることができる。彼らは目を留めて、私を眺め回す。私の服を分け合い、衣をめぐってくじを引く。(詩編 22:18-19)

極限の屈辱と苦しみの中で、主イエスの口から最初に出たことばは「父よ、彼らをお赦してください」でした。処刑される側が、自分を殺そうとする者のために祈る——これは人間的には到底考えられない姿です。罪を犯した者が処刑されるのであれば、それなりの理由があるでしょう。しかしながら、主イエスに関しては明らかな冤罪であり、妥当性のない判決、不当な暴力、罪なき者への侮辱という、主イエスにとって耐え難い幾重にも及ぶ「理不尽」に対する赦しの宣言でした。

2. 意味

この言葉には二つの深い意味があります。

① 神の側から始まる赦し

主イエスは直接「あなたたちを赦す」とは言わず、「父よ」と呼びかけました。赦しの最終的な源は神ご自身にあることを示しています。

② 赦しは無知な罪人にさえ及ぶ

人々は「自分が何をしているのか分からないまま」イエスを十字架につけました。そのような者のためにさえ、赦しが祈られているのです。これは、赦しが条件付きではなく、神の一方的な恵みであることを表しています。

3. 適用

私たちもまた「赦せない相手」や「消えない痛み」を抱えることがあります。日常においても、家族の中でのすれ違いや職場での苛立ちを経験します。しかし、主イエスの最初の言葉は、赦しこそが新しい歩みを開く力であることを示しています。今ここで、自分が赦されている恵みを思い起こし、また赦せない相手のために小さな一歩を祈りとしてささげることができます。赦すのは容易ではありませんが、祈りの中で神様が心を整えてくださいます。

4. 祈り

「父よ、赦しを知らずに生きている人々に、どうかあなたの恵みを注いでください。私たち自身がまず赦された者として生きることができますように。そして、赦せない思いを抱える心に、あなたの御手を伸ばしてくださり、イエス様のように他者のために祈れる者へと造り変えてください。この祈禱会が共に赦しを学ぶ集まりとなりますように。」